



この度「喪われし尊き命を偲ぶ会」に参加する機会を得て大変光栄と存じます。これから日韓両国の友情を深めていく意味でも大変意義ある会ではないかと思えます。

日本でも報道されておりますが、韓国では海難事故により大変な犠牲者を出し、この国家が迎えた困難をなんとか乗り越えなければなりません。この会を機に皆様のご協力をお願いしたいと思います。そして真つ先に善光寺の福島住職様がこのような法要を行って下さることに、心より感謝を申し上げます。日本で最も古くから韓国との縁がある善光寺のご住職様方の温かい友情は、これからの新しい日韓関係の礎となることでしょうか。

発起人 寿光会 長野上山田病院 院長
在日韓国人医師会会長 石川(曹)自然



二〇〇一年二月二十六日、日本の東京都新宿区J R新大久保駅において、日本人カメラマン関根史郎さんと韓国人留学生李秀賢さんの二人が線路から落ちた人を助けようとしてホームから飛び降り、入ってきた電車によって帰らぬ人となった。多くの救出劇の一つとして、一過性のものと考えられてきたが、李秀賢さんの遺されたブログや、ご両親の証言によって、彼らの行為が普遍的な思想性に裏付けられたものであることが明らかになってきた。

九九対一の世界で、「私は二を選択する」という彼らの行為が、日常性の延長の上で、実行されたことの意味を、私どもはともすれば『義拳』として、捉えがちであった。しかし、ご両親は、特別視することなく、自然なこととして、受け止めて欲しい、繰り返し述べられるとき、今、改めて、ポスト「三・一一」を生きねばならない私どもが持つている感覚を、今一度問い直してみようではありませんか。

企画協力 ちきゅうじん代表世話人
関西大学名誉教授 上田譽志美